

グローバル世界の大変化； イノベーションとは何か，国家とは何か

黒川 清*



* Kiyoshi KUROKAWA
政策研究大学院大学 客員教授
〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1（勤務先）
www.kiyoshikurokawa.com
Adjunct professor,
GRIPS
7-22-1, Roppongi, Minato-ku, Tokyo, 106-8677,
Japan (office)

グローバル世界は，わたしたちの予想を超える速さで変化している。これは産業革命以来に構築された国家，社会，経済，産業，個人などのあり方に根本的な変化が起こりつつあることにある。「ムーアの法則」にそったデジタル技術の急速な進化によるインターネットの広がりによるものだ。グローバル世界は，21世紀に入って，より分断され，脆弱になり，将来が「不確実」になってきている。社会のありかたの基本原則，つまりはパラダイムが変化し始めているのだ。

EU，日本に見られるように経済先進国の経済成長は弱い。世界全体の富は増えているが，その配分は先進国では中間層の消滅，新興国では富の格差の拡大となっている。

グローバル世界では，多くの人たちがネットにアクセスできる，そこからの画像，情報に反応する。ヒト，モノの動く範囲は，どこにでも，はるかに短い時間で広がり，カネ，情報は瞬時に広がる。個々人の認識，行動の選択肢が増える。この五年でも，アラブの春（2010.12）からISIS，東北の地震・津波・福島原発事故も，エボラも，世界の多くの人たちが，同時的に見る，反応する，行動を起こすのだ。

パラダイムの変化は，たとえば市場は

「Push から Pull」へ（この「感性」があるのか）、MOOCのように国境を越える教育革命がある。これらの方向は決して戻らない。さらに加速しながら、前へすすむ。

では「イノベーション」とは何か。このような予測のできない、多くの課題を抱える脆弱なグローバル世界の課題の中での「新しい社会的価値の創造」、これがわたしの「イノベーション」の定義だ。科学技術が優れていても、その成果を必要とところに、どのように届けるのか、なのである。技術の「イノベーション」は「イノベーション」ではない。社会制度、規制、財源、ロジなどなど、「できない理由」ではなく、どう実行し、必要とところで、新しい価値を創造するか、なのだ。「デジタル技術」は、多様で、多彩で、より容易に、資金も、人材・人財などすべての「カベ」、境界」をこえる技術であるからこそ、多くの「新しい結合」の可能性を潜めている。

「国の規制」が障害なのであれば、法改正を考えるのもよいが、ほかの国を迂回させ、海外の資本、人材などを適材適所で利用して、モノ、ヒト、カネが動く、製品を、サービスを、必要とところで新しい価値を作ることが、想像以上に容易に安価に早くできるのだ。

この1年余で、デング熱で代々木公園が封鎖される、エボラが来るかもしれない、また本年一月のアンマンの人質事件を見て、「アラブの春」も、多くの日本人が、これらが自分たちのこととして、感覚的に認識しただろう。

医療を囲む環境は、「先進国」ではこの数十年で感染症から生活習慣病、さらに長寿、高齢社会に付随する社会的問題に中心が移り始め、新興国でも同じ問題を抱え始めた。これらは医療だけでなく、財源をはじめとして社会保障、そして「医療から健康」へのシフトである。一方で、感染症は、エボ

ラ、デング、インフルエンザ、薬剤耐性菌の広がり、であり、テロやサイバーアタックなどととも、見えない、国境も関係ない、いつでも、どこからでも来るかもしれない、喫緊なグローバルな共通課題であり、リスクである。

このような、変容するグローバル時代の「新しい社会的価値の創造」こそが、社会の要請にこたえる「イノベーション」なのだ。科学技術はその一部に過ぎない。社会制度改革も、規制も、すべては人の行為である。だからこそ、変革を引き起こす「進取の気性 Entrepreneurship」にあふれた「人材、人財、才能」の「芽」、つまりは、「異能、異才、異種」など、「時代の主流、常識」から「外れた」多様な人たちの才能を伸ばすスペースをつくることこそが、グローバル時代のイノベーションの「カギ」なのである。ネットの時代の「新しい社会的価値創造」のスピードは、きわめて早く、安価に、世界の同士と協力できるのだ。

国民国家 (Nation State) の概念はこの1-2世紀に出来上がってきた概念だ。「国際」機関も20世紀後半の国家の単位で構成される。しかし、課題は「国際問題」ではなく、「グローバル」へと変化している。

人々もキャリアを求めて「オープン」な世界を動く。大学も、研究も、世界の人材をひきつけるべく競争する。企業も、NGOも国籍、国境に関係なくグローバルに展開する存在になる。しかし、国家は動けない。

「国民国家」、 「帝国主義のパラダイム」で動いてきた20世紀までの世界から、いまは、ある意味で、「国民国家の終わりの始まり」、が来ているのだ、と思う。その点で日本は歴史的にも「単一民族国家」と幻想するユニークな歴史観を持っているのかも知れない。日本の常識を離れて、もっと広く世界を感じ取る感性をもって、自分の課題、ミッションを発見し、行動することだ。